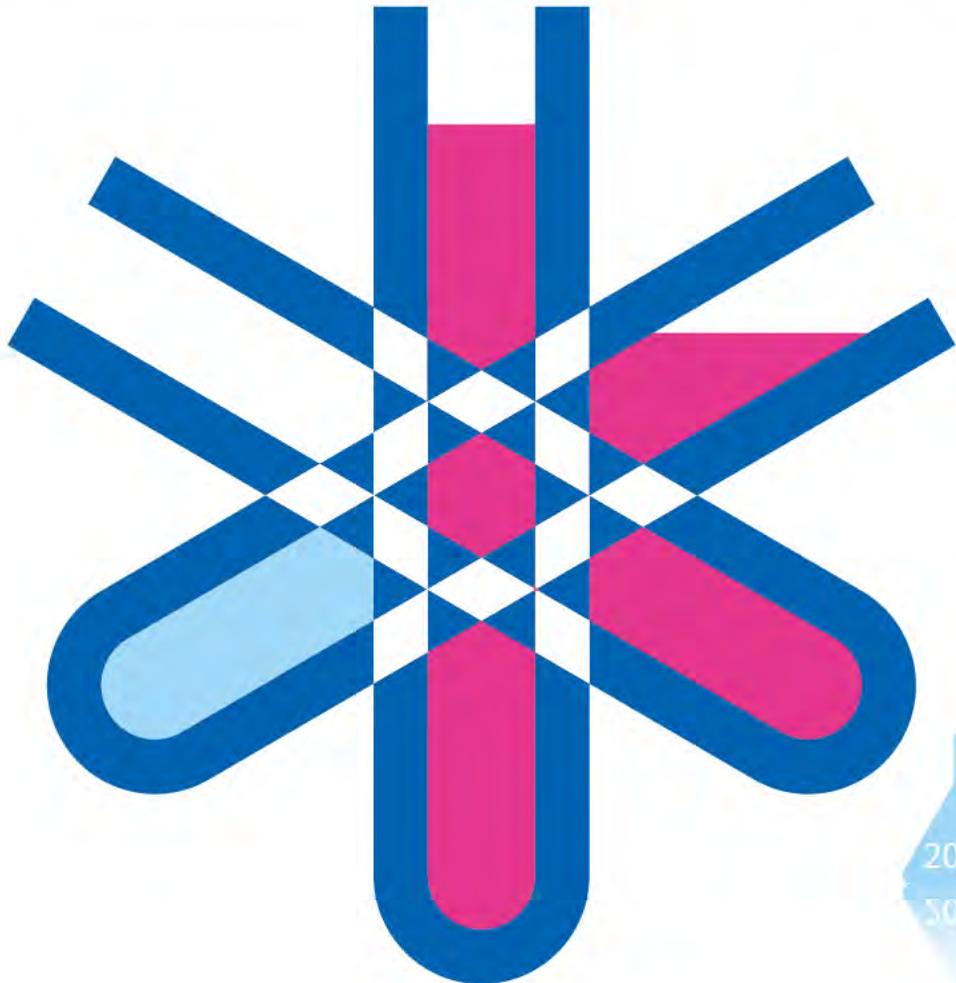


# 横查情報月報



横浜市衛生研究所

# 平成27年3月号 目次

## 【トピックス】

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その2) .....	1
遺伝子組換え食品の検査 .....	3
食品中の動物用医薬品検査結果(魚介類) .....	5

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 2月 .....	6
-------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	10
---------------------	----

## アレルギー物質を含む食品の検査結果(その2)

平成13年4月、食物アレルギーのある人の健康危害を未然に防止する観点から、アレルギー物質(特定原材料)を含む食品に表示が義務付けられました。現在、アレルギーの発症数及び重篤度を踏まえ、卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かきの7品目が特定原材料として指定されており、横浜市でもこれら7品目の検査を実施しています。

今回は、平成27年1月と2月に各区福祉保健センターが市内小学校の給食施設から収去した特定原材料除去食について、卵と乳の検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

### 1 卵の検査

卵除去給食42検体について卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、卵はすべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
親子丼の具、親子煮	10	0	0	0
コーンスープ	9	0	0	0
おでん	8	0	0	0
卵スープ	5	0	0	0
卵とじ丼の具	5	0	0	0
五目焼きそば	3	0	0	0
豆腐の中華煮	2	0	0	0
合計	42	0	0	0

### 2 乳の検査

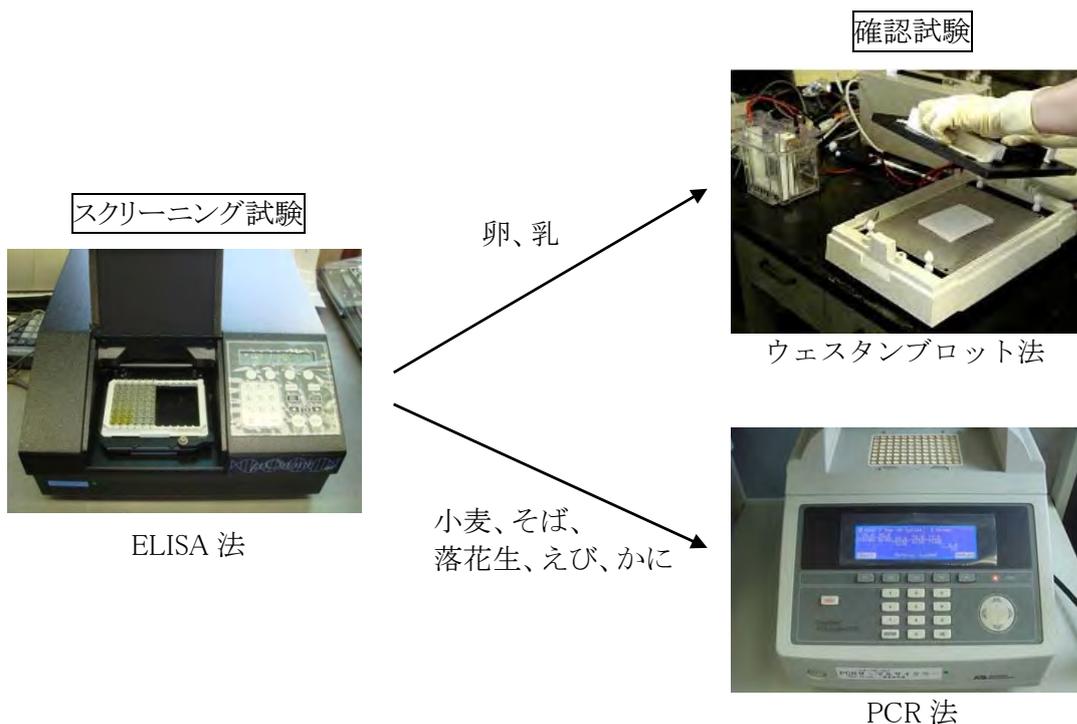
乳除去給食24検体について乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、マカロニのクリーム煮2検体が陽性(10ppm以上)となり、ウェスタンブロット法による確認試験でも陽性となりました。その他の22検体は、スクリーニング試験ですべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。現在、陽性となった2検体について、収去を行った福祉保健センターが原因を調査中です。

表2 乳の検査結果

検体名	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
米粉シチュー	8	0	0	0
マカロニのクリーム煮	7	2	2	2
ホワイトシチュー	5	0	0	0
ビーンズシチュー	2	0	0	0
スパゲティナポリタン	2	0	0	0
合計	24	2	2	2

※ 検査法について

アレルギー物質を含む食品の検査は、まずELISA法によるスクリーニング試験を行います。ELISA法とは、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、食品の加工度合いや使用原材料によって、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行います。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。



【 検査研究課 食品添加物担当 】

# 遺伝子組換え食品の検査

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され、承認後、国内で製造・輸入・販売などが可能になります。検査は、承認済みのものについては定量検査(食品中に遺伝子組換え体がどのくらい含まれているかを調べる検査)を行います。一方、未承認のものについては定性検査(食品中に遺伝子組換え体が含まれているかを調べる検査)を行います。

平成26年5月と平成27年1月に、各区福祉保健センターが収去した60検体について、遺伝子組換え食品の検査を実施しました。

## 1 遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)\*<sup>1</sup>の定量検査

大豆加工品18検体、大豆穀粒2検体について、遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)の定量検査を行いました。これらの検体について、原材料(大豆)の表示には「遺伝子組換えでない」等の記載がありました(任意表示)。もし、分別生産流通管理\*<sup>2</sup>が実施されていない場合は「遺伝子組換え不分別」等、遺伝子組換え大豆を原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示が必要です(義務表示)。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下\*<sup>3</sup>であり、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換え大豆(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
豆腐	日本	18	0
大豆穀粒	カナダ	2	0
計		20	0

\*<sup>1</sup> いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだ大豆の品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

\*<sup>2</sup> 遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で混入が起らないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。

\*<sup>3</sup> 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、大豆では5%以下の意図せざる混入が認められています。

## 2 遺伝子組換えコメ(63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメ)\*<sup>4</sup>の定性検査

コメ加工品20検体について、遺伝子組換えコメ(63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメ)の定性検査を行いました。これらの検体について、原材料(コメ)の表示には「遺伝子組換えでない」等の記載がありました(任意表示)。その結果、いずれの検体も不検出で違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメ)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
麺類(ビーフン、フォー等)	台湾(3)、タイ(3)、ベトナム(3)	9	0
米粉	日本	5	0
ライスパーパー	ベトナム(2)、日本(1)	3	0
米菓、餅等	日本	3	0
計		20	0

\*4 いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本で未承認のため、食品衛生法により販売等が認められていません。

### 3 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10\*<sup>5</sup>)の定性検査

トウモロコシ加工品19検体、トウモロコシ粉砕品1検体について、遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の定性検査を行いました。これらの検体について、原材料(トウモロコシ)の表示には「遺伝子組換えでない」等の記載がありました(任意表示)。検査の結果、いずれの検体も不検出で違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
コーンスナック菓子等	日本	15	0
コーンスターチ	日本	2	0
コーンスープ	日本	2	0
トウモロコシ粉砕品	日本	1	0
計		20	0

\*5 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本で未承認のため、食品衛生法により販売等が認められていません。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

## 食品中の動物用医薬品検査結果(魚介類)

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、平成27年2月に食品専門監視班が収去した市内を流通している魚介類の検査結果を報告します。

魚介類10件(さけ目魚類4件(ギンザケ1件、サーモントラウト3件)、すずき目魚類3件(ブリ)、甲殻類3件(エビ))および魚介類加工品2件(アトランティックサーモン、ボイルエビ)について検査を行った結果を表に示しました。ブリ1件よりオキシテトラサイクリンが0.03ppm(基準値0.2ppm)検出されましたが、すべての項目で基準値を超えるものはありませんでした。

表 動物用医薬品の検査項目、検査結果および検出限界

検査項目	検査結果				検出限界
	さけ目魚類 (4件)	すずき目魚類 (3件)	甲殻類 (3件)	魚介類加工品 (2件)	
<b>【合成抗菌剤】</b>					
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンを含む)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フロルフエニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
<b>【抗生物質】</b>					
オキシテトラサイクリン	N.D.	0.03(1件) N.D.(2件)	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.0005

単位:ppm N.D.:不検出

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

## 感染症発生動向調査委員会報告 2月

### 《今月のトピックス》

- インフルエンザが昨シーズンより6週早く、警報解除基準値(定点あたり10.00)を下回りました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加しています。

### 全数把握疾患 2月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件
腸チフス	1件	急性脳炎	4件
パラチフス	1件	クリプトスポリジウム症	1件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
つつが虫病	1件	ジアルジア症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	11件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	6件
ウイルス性肝炎	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件

- ＜腸管出血性大腸菌感染症＞1件(O157VT1VT2)の報告がありました。感染原因や経路は不明です。
- ＜腸チフス＞1件の報告がありました。インドネシアでの感染が推定されています。
- ＜パラチフス＞1件の報告がありました。インドでの感染が推定されています。
- ＜A型肝炎＞1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されていますが感染経路等不明です。
- ＜つつが虫病＞1件の報告がありました。ラオス(ルアンナムター)での感染が推定されています。
- ＜デング熱＞1件の報告がありました。インドネシア(バリ島)での感染が推定されています。
- ＜レジオネラ症＞肺炎型3件の報告がありましたが、それぞれ明確な感染経路等不明です。各症例について引き続き感染経路等調査中です。
- ＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症1件と腸管アメーバ症及び腸管外アメーバ症1件の報告があり、どちらも国内での感染で、明確な感染経路は不明でした。
- ＜ウイルス性肝炎＞B型肝炎の報告が1件ありましたが、感染経路等不明でした。
- ＜カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症＞6件の届出がありました。院内での集団感染等はありませんでした。
- ＜急性脳炎＞4件(すべて幼児)の報告がありました。そのうち2件はインフルエンザA型(いずれも予防接種歴不明)でした。他の病原体については現在検索中です。
- ＜クリプトスポリジウム症＞1件の報告がありました。フィリピンでの水系感染が推定されています。
- ＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者1件、AIDS 2件、その他1件の報告がありました。3件は国内での同性間性的接触、残る1件は日本又はインドでの感染が推定されており、感染経路は不明でした。
- ＜ジアルジア症＞1件の報告がありました。カンボジア(シェムリアップ)での経口感染が推定されています。
- ＜侵襲性肺炎球菌感染症＞11件の報告がありました。50歳代が2名、60歳代が3名、70歳代以上が6名でした。そのうち70歳代の1件は3年ほど前に予防接種を受けていましたが、他は予防接種歴は無いか確認できませんでした。
- ＜水痘(入院例に限る)＞学童1件(検査診断例。予防接種歴2回有り。)、50歳代1件(検査診断例。予防接種歴不明)、70歳代1件(臨床診断例。予防接種歴不明)の届出がありました。
- ＜梅毒＞晩期顕症梅毒2件(1件は異性間性的接触、もう1件は感染経路感染地域等不明)、早期顕症梅毒I期1件(国内での異性間性的接触)、無症候期2件(どちらも国内での感染で、1件は同性間性的接触、もう1件は性的接触)、病型確認中1件の報告がありました。
- ＜バンコマイシン耐性腸球菌感染症＞1件の報告がありましたが、院内感染等はありませんでした。

**定点把握疾患**

平成27年1月26日から平成27年2月22日まで  
(平成27年第5週から平成27年第8週まで。ただし、性感染症については平成27年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

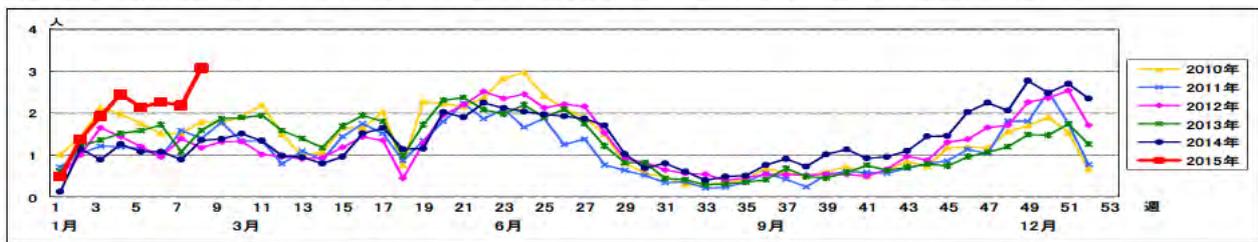
平成27年 週一月日対応表

第5週	1月26日～2月 1日
第6週	2月 2日～2月 8日
第7週	2月 9日～2月15日
第8週	2月16日～2月22日

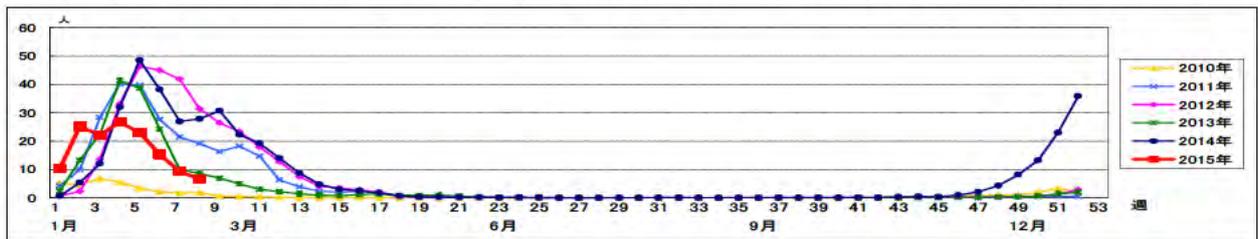
**1 患者定点からの情報**

市内の患者定点は、小児科定点:94か所、内科定点:59か所、眼科定点:22か所、性感染症定点:29か所、基幹(病院)定点:4か所の計208か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計153定点から報告されます。

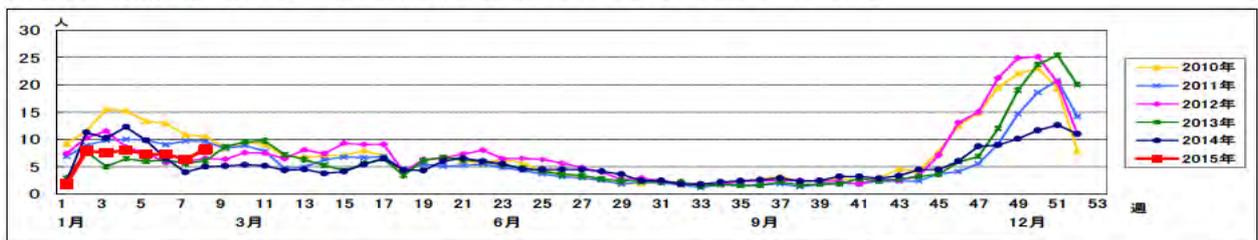
<インフルエンザ>第7週に定点あたり9.30と、昨シーズンより6週早く警報解除基準値(10.00)を下回りました。第8週は6.57とさらに減少傾向です。今シーズンは、シーズン後半になってもB型の著明な増加は見られず、第8週で迅速キットの結果はA型86.8%、B型13.1%、AB型0.1%となっています。



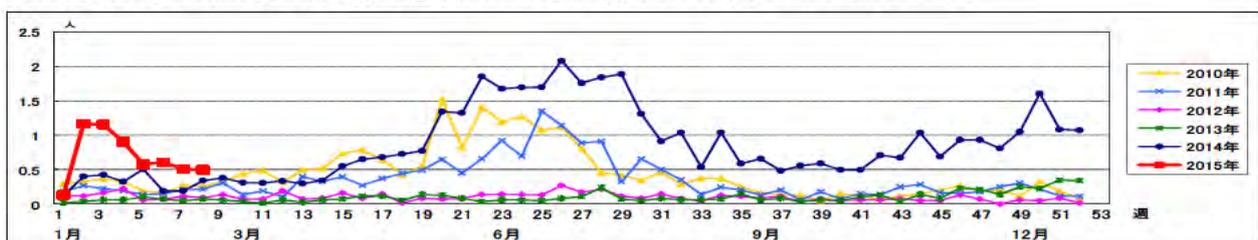
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>第8週は市全体で定点あたり3.07と、この6年間で最も多くなっています。



<感染性胃腸炎>第8週は市全体で定点あたり8.18と落ち着いています。



<伝染性紅斑>第8週は市全体で定点あたり0.49と、徐々に減少しつつあります。



<性感染症>1月は、性器クラミジア感染症は男性が12件、女性が11件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が15件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第5週0.33、第6週0.00、第7週0.00、第8週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第5週0.67、第6週0.00、第7週0.33、第8週2.00と報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件、内科定点13件、眼科定点3件、基幹定点3件でした。

3月9日現在、ウイルス分離37株と各種ウイルス遺伝子17件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	胃 腸 炎	発 疹 症	耳 下 腺 炎	そ の 他
アデノ 3型	1						
アデノ NT	1	1			1		
インフルエンザ AH1pdm09型			1				
インフルエンザ AH3型			27			1	
インフルエンザ B型			6				
パラインフルエンザ 2型	1						
ヒト メタニューモ	3						1
ヒト コロナ OC43型	2				1		
ライノ	2						
単純ヘルペス 1型	1						
ロタ				2			
ノロ				2			
合計	2 9		34	4	2	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から1件、その他が5件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2)、チフス菌がそれぞれ1件、パラチフスA菌が3件検出されました。チフス菌はインドネシアへの渡航者から、パラチフス菌はミャンマー、インドへの渡航者から検出されました。小児科定点からはありませんでした。

その他の感染症は小児科からが2件、基幹定点から1件、その他が15件でした。バンコマイシン耐性腸球菌はvanB遺伝子保有の*Enterococcus faecium*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	2月			2015年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
腸管出血性大腸菌			1			2
チフス菌			1			1
パラチフスA菌			3			3
不検出	0	1	0	0	6	0

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	2月			2015年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		2		3
	T4			2		
	T28	1		2		3
	型別不能			2		
G群溶血性レンサ球菌						2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					4	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		1	1
<i>Legionella pneumophila</i>						1
肺炎球菌			4		1	20
<i>Neisseria meningitidis</i>						1
百日咳						1
その他		1	4		2	4
不検出	0	0	6	0	0	14

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成27年2月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成27年2月)

平成27年2月の総アクセス数は、134,014件でした。主な内訳は、感染症情報センター76.2%、食品衛生4.0%、保健情報5.2%、検査情報月報2.1%、生活環境衛生1.9%、薬事0.5%でした。

### (2) アクセス順位 (平成27年2月)

2月のアクセス順位(表1)

表1 平成27年2月 アクセス順位

は、第1位が「横浜市インフルエンザ流行情報11号」、第2位が「横浜市インフルエンザ流行情報13号」、第3位が「横浜市インフルエンザ流行情報12号」でした。

順位	タイトル	件数
1	横浜市インフルエンザ流行情報11号	7,893
2	横浜市インフルエンザ流行情報13号	5,693
3	横浜市インフルエンザ流行情報12号	5,413
4	インフルエンザについて	3,979
5	衛生研究所トップページ	3,765
6	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,530
7	案内リーフレット	3,448
8	横浜市感染症情報センター	3,438
9	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,196
10	横浜市感染症臨時情報「感染性胃腸炎に気をつけましょう。」	3,162

2月の総アクセス数は、前月に比べ35%ほど減少しました。今月の1位から4位までは、インフルエンザに関連するタイトルが独占しました。2月に入り、市全体でインフルエンザの流行警報解除基準値(定点当たり10.00)

データ提供: 市民局広報課

を下回りました。また、学級閉鎖施設数やインフルエンザ入院患者数も減少傾向です。但し、区別では、依然として流行警報解除基準値を上回っている区もあり、引き続き注意が必要です。インフルエンザの予防としては、ワクチンが有効ですが、日常の手洗いやうがい、マスクの着用などがとても大切です。

#### 「横浜市インフルエンザ流行情報11号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2014/rinji11.pdf>

#### 「横浜市インフルエンザ流行情報13号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2014/rinji13.pdf>

#### 「横浜市インフルエンザ流行情報12号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2014/rinji12.pdf>

### (3) 電子メールによる問い合わせ（平成27年2月）

平成27年2月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成27年2月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
食品からのカンピロバクター検査について	1	検査研究課細菌担当が回答案を作成し、感染症課から回答
当所HPへのリンク設定について	1	感染症・疫学情報課
英国のこどもの定期予防接種について	1	感染症・疫学情報課
苦情事例集内容に関する問い合わせ	1	検査研究課食品添加物担当

### 2 追加・更新記事（平成27年2月）

平成27年2月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 平成27年2月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
2月 2日	スロベニア共和国のこどもの定期予防接種について	更新
2月 3日	感染症に気をつけよう(2月号)	掲載
2月 4日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成26年)	掲載
2月 4日	クロアチア共和国のこどもの定期予防接種について	更新
2月 5日	横浜市インフルエンザ流行情報11号	掲載
2月 6日	アイスランドのこどもの定期予防接種について	更新
2月12日	衛生研究所アルバイトの募集(締切:3月6日17時)	掲載
2月12日	横浜市衛生研究所における飲料自動販売機 設置事業者募集について	掲載
2月13日	横浜市インフルエンザ流行情報12号	掲載
2月19日	横浜市インフルエンザ流行情報13号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】